令和４年度　学力向上を図るための授業改善推進プラン

教科【　国語　】

| | 生徒の現状 | 現状の課題 | 具体的な改善のための方策 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 基礎・基本の定着のために | 思考力・判断力・表現力を育むために | 学びに向かう力を育むために |
| １年 | ◎定期考査や学力調査の結果から考えると、内容理解に時間がかかり、問題に十分取り組めていない生徒が見られる。<br>◎語彙が不足している生徒が見られる。 | ◎自分で考える時間が取れていない生徒の多くは、指示されたことにすぐ取り掛かれていない。<br>◎意味を理解して、言葉に接する姿勢が身に付いていない。 | ◎「始鈴学習」（漢字学習）を継続し、すぐ取り組みを始められるようにする。また、言葉の意味も意識できるような働きかけを行う。 | ◎各自がメモした気づき等を発言させ、互いの考えを知り、自分の考えをまとめられる取り組みを行う。<br>◎問いに対する答え方を意識できる取り組みを適宜行う。 | ◎プリントに授業で「わかったこと」「考えたこと」を記録させ、良い点は評価し、疑問等に答えるような点検を行う。 |
| ２年 | ◎語彙が不足している生徒が見られる。<br>◎学習活動に遅れの目立つ生徒が見られる。<br>◎授業内での発言は非常に活発である。 | ◎漢字学習やワークによる家庭学習が不十分な生徒は、読解にすぐ取り掛かることができていない。<br>◎授業内での発言が文章読解には結びついていても問題演習に結び付いていない。 | ◎「始鈴学習」（漢字学習）を継続し、授業に結び付けられるようにする。<br>◎国語の学習方法について、共有できるような学習活動を取り入れていく。 | ◎授業内での互いの発言を整理させ、それぞれの発言について改めて考えることができるような取り組みを行う。 | ◎単元ごとに、classroomなどを用いて授業感想を集め、それを共有することで様々な視点から国語の学習に取り組めるような態度を養う。 |
| ３年 | ◎記述式問題において、問題に正対できていない生徒や苦手意識を持つ生徒がみられる。<br>◎語彙が不足している生徒がみられる。<br>◎授業への取り組みが定期考査などの結果に結びついていない生徒が見られる。 | ◎定期考査前の学習のみに偏っている生徒の多くは、内容理解をしていても、思考力の向上に結び付いていない。<br>◎漢字や熟語、国語用語の意味を理解したうえで言葉に接する姿勢が身に付いていない。 | ◎「始鈴学習」（漢字学習）を継続し、授業に結び付けられるようにする。<br>◎新たな単元に入る前に、ワークを用いた家庭学習に取り組ませる。<br>◎三年間の学習内容を深めることができる学習活動を取り入れていく。 | ◎問いに対しての取り組み方を意識できる発問を行う。<br>◎小説や評論などの単元後には関連する文章などを用意し、単元を通してどのような力が身に付いたか確認する。 | ◎単元ごとに、classroomなどを用いて授業感想を集め、それを共有することで様々な視点から国語の学習に取り組めるような態度を養う。<br>◎社会や人間、自然と結び付けられるような題材を取り入れる。 |